

Q23 清掃時における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

昼休み終了のチャイムが鳴り清掃の時間になると、Aちゃんは教室に戻らないで校庭のあちこちを歩き回ります。友達が教室に行こうと誘っても、「そうじはきれい」「そうじはやらない」と言って逃げてしまうことがあります。

自閉症の子どもは、自分のペースで活動することを好み、集団で協力・協調して行う活動を苦手としています。清掃の時間は一斉に掃いたり、拭いたり、運んだりするなど集団での活動が多くあり、Aちゃんにとって苦手な時間であると考えられます。

また自閉症の子どもの一部には、運動機能（粗大・微細）面においての不器用さも見られます。清掃の時間は、ほうき、ちりとり、雑巾といった用具を使用するための技能も求められるので、この事例のように「そうじはきれい」となってしまう場合もあるのです。

〈このような場合の支援 1〉

小学校2年生の知的障害を伴う自閉症の男児。清掃の時間になると廊下に出たり、水飲み場に行って水道の水を出して遊んだりしています。このような場合の支援の方法としては、以下のようなことが考えられます。

- ① 清掃の手順について理解させる（例：集まる→分担された清掃をする（掃く、机やいすを運ぶ、床を拭く、ゴミを捨てる、など）→反省会をする）。
- ② 簡単にできることから始める（例：「ゴミを10個ひろう」「床をからぶきする」「いすを10個運ぶ」など）。
- ③ 未経験の部分を補う指導を行う（例：いすを机の上に乗せるとき、逆さにして持つ場所にビニールテープで印をつけておく。たたんだ新聞紙を絞る練習をする。ピンポン玉程度に丸めた新聞紙（水を含んだもの）をほうきで掃く練習をする。床に印をつけておき、ゴミを集める場所をはっきりさせる）。
- ④ 「そうじがんばり表」などを準備して、評価を視覚的にわかるようにする。

〈このような場合の支援 2〉

小学校3年生の高機能自閉症の女児。清掃時に、「きのう見たテレビはね…」「うちのネコはとってもおもしろいのよ…」など、友だちに一方的に話していて、いっこうに清掃がはかどらないことが多いのです。友だちからは「少し静かにしてそうじをちゃんとやって」と言われています。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ⑤ なぜ清掃をするのか、その必要性を理解・確認する（例：みんなが気持ちよく教室を使うため、汚れたところをきれいにする。そのため一人一人が清掃を行う等）。
- ⑥ 静かに清掃をする時間を決める（例：音楽が鳴っている間は、話さないでそうじをする）。
- ⑦ 必要なら、話しかけられても計画的に無視をすることで、本児の話を助長しないようにする。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子